

## 「福井の教育」向上会議における主な意見

### ◆ 視点

#### ○ 学力・体力と併せた人間力の向上

- ・社会で活躍するのは学力だけでなくリーダーシップなどの人間力を持つ人である。リーダーに必要な力を伸ばすため、学校教育とは違った視点での話が聞けるよう、月に1回でも、多分野の優れた人物と接する機会を設けてはどうか。
- ・根性や柔軟性、創造性など、数字には示すことができなくても大事なことがある。地域での体験等を通じて見えない部分も大事にした教育が必要である。
- ・基本的な知識やスキルの習得は大事だが、それを通して自分のものにして表現できる力がとても大事である。

#### ○ 多様性の重視

- ・福井の学力・体力は子どもたちの同質性を前提に成り立っているところがあり、多様性・異質性をどのように学校現場に持ち込むかが課題である。
- ・福井の教育・授業研究を世界に発信するとともに、海外からの研修の受け入れなど、福井の学校のグローバル化を考えてはどうか。

### ◆ 重点的に推進すべき分野

#### ○ ふるさと教育の推進

- ・これからは、福井のことを学ぶだけではなく、地域に出て実際に福井そのものをつくる学習も必要である。
- ・福井県内でも地域を担う人材が福井に集中している。人口減少社会の中で地域にどのように活力を残していくかということは福井県の中でも同じ状況である。

#### ○ 社会における学習の重視

- ・子どもの文化は子どもが自ら生み出すことが大事。創り出す力を育てるためには、自然体験や生活の中での実体験を増やすことが必要である。
- ・地域の中にも伝統芸能や文化を担う方が大勢いるので、そのような方を学校教育の中で活躍してもらう方法を考えてはどうか。

## ○ 授業方法の改善

- ・手取り足取り教える教育では、平均点は上がっても、自立して頑張る能力が低くなり、成長が止まる。手取り足取り教えることをやめることで、かえって自主性を育てることもあるのではないか。
- ・教員が全てやろうとするよりも、生徒自身に考える機会を与えることが大切である。一人ひとりが、自分で求め、考え、実行することが重要である。
- ・小学校低学年から継続した英語教育を考えてほしい。英語で算数を教える塾もあると聞いており、教科の柔軟性を持たせてはどうか。

## ○ 学校再編

- ・学校・学級の規模が小さくなると、小中学校では9年間固定的な関係が続く。異なる年齢層での共同学習などで多様性を担保することが大事である。
- ・生徒が減る中で、高校再編が必要になる。その中で特色ある高校をどうつくるかが課題である。

## ○ 教員の意識の変化・成長

- ・従来の被教育経験、授業のスタイルや教師観とは異なり、アクティブ・ラーニングを進めていくためには、教員研修のあり方を考える必要がある。
- ・21世紀型の「新しい学力」を身に付けさせるためには、教師自身も「教える専門家」から「学びの専門家」に転換する必要がある。
- ・大学と教育委員会が連携し、教師の生涯にわたる職能成長を支える仕組みを構築することが重要である。学び続ける教師像の具体的な姿を明らかにしていく必要がある。

## ○ 幼児教育

- ・5歳児までにどんな力を身に付けるかで先に響いていく。5歳児のときにできないことは大学生になってもできないので、幼児教育は重要である。
- ・不登校の大部分は小学校1年生から始まる。小学校の教員が幼児教育との関わりを持ち、幼稚園・保育所から小学校にスムーズにつなげることが重要である。
- ・家庭教育をうまく巻き込む仕掛けが必要。一方的にスマホやゲームを禁止しても勉強時間が増えるわけではない。自分で机に向かわせる努力が必要である。

## ○ 家庭や地域での教育

- ・若い父親が単に母親の手伝いをするだけではなく、職業人であるとともに、親としても育つことができるプログラムが大事ではないか。
- ・教育投資に対する費用対効果が高いのは、土曜日や放課後学習である。地域ぐるみで子どもの放課後学習をサポートするような学習プログラムがあれば非常に有効なのではないか。

## ○ 文化教育

- ・文化を根付かせるには本物を知る経験が大切である。本物の文化・芸術に親しむ機会を全体的にきめ細やかに設けて欲しい。
- ・美術、工芸、音楽、書道など専門性の高いアーティストを高校の教員とすることや芸術・文化を分かりやすく伝えるコーディネーターが必要ではないか。